

◆平成19年度～21年度重点普及課題

モズク安定供給対策事業

石川貴宣・與那嶺盛次

1. 目的

沖縄県のモズク養殖生産量は、平成18年に2万トンと過去最高の生産量を記録した。しかし、これまで生産量が安定せず需給バランスの崩れによる値崩れや値段の高騰が沖縄県のもずく振興策の妨げになっており安定生産による価格の安定が課題となっている。安定生産に向けた技術的な課題を改善することを目的とする。

2. 活動内容

1) 培養技術の普及

沖縄県では、もずくの種を培養し、希望する生産者に配布しているが、配布後の拡大培養時に調子が悪くなることがあり、そのまま種付けを行い失敗することがある。そのため、培養種の拡大培養技術及び採苗方法の普及のための巡回指導を行う。

(1) 実施地区：本島中南部地区

漁協への種苗配布の文書通知を行った。平成20年8月31日より配布開始した。普及センター本所の配布は、オキナワモズク(12漁協)132リットル。イトモズク(8漁協)54リットル配布。

イトモズクは、県水産海洋研究センターの須藤研究員の協力によりフラスコ内で発芽試験を行い、発芽した久米島産・読谷産の種を拡大培養。

生産者への種培養指導は、知念漁協・勝連漁協・那覇市沿岸漁協・南原漁協・沖縄市漁協・読谷村漁協の生産者に行った。

(2) 実施地区：本島北部地区

普及センター本部駐在では、金武漁協、宜野座村漁協、伊是名漁協、伊平屋村漁協、伊江漁協、本部漁協、国頭漁協、今帰仁漁協8漁協の養殖グループや漁業者にオキナワモズク培養種76リットルを配布した。

また、金武漁協、宜野座村漁協、伊平屋村

漁協、伊江漁協4漁協の養殖グループや漁業者にイトモズク培養種26リットルを配布した。本部漁協の養殖グループに寒天培地の作製方法とオキナワモズク盤状体の分離方法を指導した

種培養指導は、本部漁協・今帰仁漁協・金武漁協・伊江漁協・国頭漁協の生産者に行った。種拡大培養の巡回指導を実施したところ、後半に配布したオキナワモズク培養種に藍藻が混入していた。藍藻混入は、培養室のエアを外から取り入れているため、温度差によってエアパイプに溜まった水滴が原因と思われるので、現在培養室内にエアポンプを設置している。

2) 培養種による種付け技術の改良

(1) 種付け密度試験

別添にて報告。

(2) 種付けタンク改良試験

種付けタンクの材質・大きさ・色の違いによる種付け状況を比較し、種付けに最適なタンクの作成・普及を行う。平成19年度は沖縄本島地区は実施しなかった。

(3) 養生環境の調査

別添にて報告。

3) 人工苗床法の技術普及

別添にて報告。

4) 中層張り技術の普及

別添にて報告。